

## オホーツク水圏環境学特論（二）(2単位)

担当者氏名 小林 万里

### ◆学習・教育目標（到達目標を記載）

オホーツク海は、オホーツク海は、世界でもっとも“不思議な海”といわれている。  
 その1つは、地球上で流水が流れ着く最南端であること。2つめは、世界3大漁場といわれるほど、水産資源が豊かな海であること。3つめは、地球の氷河期の環境をいまに伝える海であることなどが挙げられる。  
 これらの海を海流構造、生物多様性、高次捕食者などの観点から理解することを目的とする。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

海生哺乳類                      魚類                                      生態系                                      基礎生産  
 海流構造                              流水

### ◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	オホーツク海とは？	・オホーツク海の定義から、オホーツク海の概要・地形について、特徴を学ぶ。	◎配付資料を熟読し、2時間程度の復習と予習を行うこと。
2	オホーツク海の流れ構造	・オホーツク海の表層海流はどんなものがあるのかを学ぶ。	◎レポートの提出を求めらるので、特に興味のある授業内容について配付資料のみならず、学術情報センターの図書や関連論文を読んで、レポートの作成に備えること。
3	オホーツク海の流水	・オホーツク海には、シベリアの大河アムール川から流れ込む大量の淡水が海面に広がり、ここに冬の強い風が吹きぬけると、海面が凍り、それが流水となる。	◎オホーツク海に関する論文を読んで、その内容を紹介する発表の準備をすること。
4	流水の近年の変化	・近年の温暖化による流水の減少傾向や変化について学ぶ。	
5	オホーツク海の基礎生産	・流水には多くの植物プランクトンが含まれ、これらは氷がとける春になると急激に増え、オホーツク海の基礎生産を高めていることを理解する。	
6	オホーツク海の水産資源	・漁業資源の宝庫で、豊かな漁場になっていることを理解する。	
7	オホーツク海の高次捕食者	・季節ごとに多くの海生哺乳類に利用されていることを理解する。	
8	オホーツク海食物連鎖	・流水に含まれる植物プランクトンが、動物プランクトンの良いエサになる。すると、動物プランクトンを目当てに多くの魚が集まる食物連鎖が広がることを理解する。	
9	オホーツク海生物多様性	・樺太の東部には東樺太海流が流れており、これらがオホーツク海の生態系を支えていることを理解する。	
10～15	オホーツク海論文紹介(1)～(6)	・オホーツク海に関する論文を読んで、発表する。	

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜、試料などを配布する。

### ◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

出席、レポートで評価する。

### ◆オフィスアワー

毎週月曜日の午後、研究室で質問等を受け付ける。

### ◆その他受講上の注意事項

教員から教わるのではなくて、自ら積極的に授業に望んで欲しい。